

# 不都合な科学

河田 聡

科学は人が創るものである。科学の世界に永遠の真実などなく、時々の人々の解釈が科学を支配する。捏造はもちろんいけないが、ピアレビューが正しい科学を生むとは限らない。ガリレオガリレイ、ニュートン、アインシュタイン……。過去の権威と真理を否定することによって、科学は進化してきた。

科学は本当はとても情緒的で、文学的である。宇宙の起源も生命の起源も、地球の未来も人類の未来も、物語だと思う。それぞれの人に違う答えがあったって、構わない。数学に強くて手先が器用で間違いを許さないことが、科学者の条件ではない。情緒的で文学的で哲学的でない人が科学をやっても、楽しくはなからう。新しい発見や新しい発明は、科学者の文系的なセンスから生まれると思う。鉄腕アトムの漫画を読んで、科学を好きになった少年が大勢いる。野口英世の伝記を読んで科学者を目指した人たちもいる。

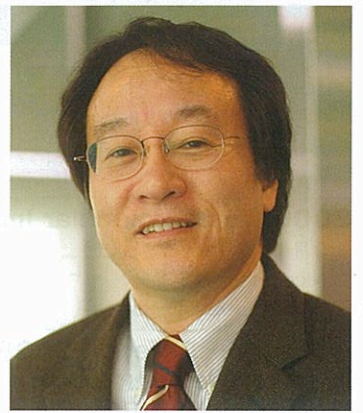
昨今の理系離れは、このような科学の本質や科学者の文化をわからずに、科学が冷淡なまでに論理的で真実であると教えることに一因があると思う。ものづくりが大切だとか科学技術立国を謳ういわゆる知識人達と本当の科学者との間に、意識の乖離が進んでいるのではないか。本当の科学の楽しさを知らずに科学技術立国や理系教育を語っても、科学好きの人たちが増えることはなからう。

国の政策は政治家が作るものであり、それを伝えたり論評するのはジャーナリストである。ところが日本では他国と比べて、政治家やジャーナリストに科学技術の専門家、すなわち理系で学位を取った人が著しく少ない。博士取

得者がベンチャーを起業する例も少ないし、SF作家などの小説家も少ない。日本では、学位を取ると概ね研究者か学者になると決まっている。特に、ポストク1万人計画という政策ができて以来、博士を取得した若者の多くがポストクという契約制の研究員になり、他の道に進むことが少なくなってしまった。そんなに大勢の契約制研究員を作っても、彼らのその後の道は狭い。欧米のように、学位取得後にはもっと広く社会で活躍し貢献してほしい。

科学技術立国というなら、何人かの政治家には理系博士課程で科学を学んで欲しい。あるは理系博士が政治家になって欲しい。理系出身の官僚や総合科学技術会議メンバーが大臣や首相などの政治家を補佐をするにしても、科学技術政策の立案は政治家の責任であろう。

政治家以上に気になるのは、マスメディアである。情報化社会の現代、第4の権力であるマスメディアの果たすべき役割は大きい。しかしながら、日本のマスメディアには理系博士はほとんどいない。その結果、科学に関するニュースや評論がまるで芸能ニュースと変わらぬ、大衆迎合的なものになる。センセーショナルであるほど面白いのであろう。南国の島が水浸しになる映像が繰り返し放映され、石油の消費が地球温暖化をもたらすそのために水位が上がったのだという説明がなされる。水位が上がったのは海水の量が増えたからなのだろうか。島が沈みつつある可能性を考えようもしない。かつて日本沈没というSF小説があった。エベレストに海底生物の化石が見つかり、海底にも遺



## 著者紹介

河田 聡:大阪大学教授、理化学研究所主任研究員、NPO法人SORIA理事  
www.skawata.com/j/

跡が見つかる。地球が生きていることを知るのが科学の楽しみであるが、非科学的な科学報道はうんざりする。そしてこれが、地震対策や地球温暖化対策、洪水対策などの利権政治に利用される。原子力発電や遺伝子組み換え問題など、およそあらゆる科学技術が生む出す文明は、常に危険性と便利さの両面を持つ。科学はしばしば政治に利用される。

科学について教養のあるジャーナリストや政治家が欲しいと願う。そんな思いから、仲間達と大阪の中之島に私塾SORIAを作ることにした。阪大の跡地であり福沢諭吉の生誕の地でもある。モデルは緒方洪庵の適塾。かつて、ここに日本の英知が集まり、科学(蘭学)を学んだ。適塾で蘭学を学んだ福沢諭吉は、後に時事新報を興し「学問のすゝめ」や「文明論之概略」を記し、慶應義塾を創設した。ジャーナリストとして思想家として、そして起業家として日本の文明開化に貢献した。平成の今、理系博士から科学ジャーナリストや政治家、起業家、小説家を育てたいと思う。

## 注釈

タイトルはアル・ゴアさんの「不都合な真実」に対するちょっとした皮肉のつもりです。

LFWJ